

# 赤水の人物像、業績解説

## 顕彰会30周年 記念誌2冊を発行

現在の高萩市出身で江戸時代の学者、長久保赤水(1717~1801年)の功績を伝える長久保赤水顕彰会は、同会創立30年の記念誌2冊を発行した。赤水の人物像のほか、日本で初めて経緯線のある全国地図を完成させるなどの偉業を成

し遂げた情熱や、国の重要文化財に指定された資料群を紹介している。記念誌のうち「江戸時代後期の巨星 長久保赤水」は、赤水について長年研究を重ねる同会顧問、長久保源蔵さん(91)が執筆した。赤水の出生と学問への目

覚めから、全国各地を渡り歩いた記録、地図作成、水戸藩6代藩主の徳川治保に学問を教える「侍講」に取り立てられるなどの業績まで網羅した。

長久保赤水顕彰会が創立30周年を祝して発行した2冊の記念誌

もう1冊の記念誌「長久保赤水資料群」では、2020年に国重要文化財(重文)に指定された赤水の関係資料693点などを紹介している。

赤水は、伊能忠敬による地図の完成より42年前の1779年、日本地図「改正日本輿地路程全図(赤水

図)」を完成させた。先人による地図や官製の国絵図など多くの資料を基に編集し、地名などを緻密に記したほか、天文学も学び地図が正確性に富んだことなどを記念誌で解説している。

また農民の出だった赤水は藩主の治保に対し、農民

の窮状を訴えて藩政改革を求めた「農民疾苦」を提出し、実現させた。いずれの記念誌でも、こうした地図作成以外の働きについても詳しく説明する。

記念誌はいずれも1100円。購入の問い合わせは同会の佐川春久会長☎090(1846)6849。